

みんなの応援が、私は一人じゃないと思わせてくれた

もチームの力で良い試合になるので、最後まで勝敗はわかりません。また、カーリングの練習は全て一人でできるので、チームスポーツでありながら、個人で黙々と取り組めるところも私にとっての魅力ですね。

——**どのようにお仕事と競技生活を両立していますか。**

宮内中学校の事務職員として週5日勤務しているのですが、基本的に仕事を終えてから練習時間を取っています。仕事帰りに体育センターで基礎トレーニングをするほか、週1回は軽井沢のリンクに通い、2時間の個人練習をしています。平

日の方が空いているので、仕事の後に車で2時間ほどかけて軽井沢へ向かいます。もっと練習を増やしたいと思ったこともあり、効率的な練習や分析を心がけたり、仕事で身に付けた予想外の出来事への対応力なども役立っていて、カーリングに専念するよりも強くなれている気がします。

——**勤務されている宮内中学校での反響などはありましたか。**

最初はカーリングのことを周りに話していなかったんですが、前回の世界選手権に行くことを伝える時に宮内中学校の皆さんがすごく喜んで応援してくださったんです。それだけで日本代表になって良かったと思いましたが、頑張る

力にもなっています。最近では、福祉学習の一環として市内の小学校で講演をさせていただくこともあり、車いすカーリングのことを伝える機会が増えています。

最近も先生や生徒、保護者の皆さんから応援の言葉をいただいたり、「自分もいつかオリンピックに出るんだ」と自分の夢を教えてください、と考えることが嬉しいですね。

——**今大会に向けてどんなことを強化してきたのでしょうか。**

一番はショットの精度の強化です。特に速いテイクショット(※)を練習しています。気持ちの面では、前回のパラ五輪から世界選手権を2回積み重ねてきた分、最後まで粘れる心、自分を信じて投げ

※テイクショット…ストーンを当ててはじき出すことを目的とした投球

選手プロフィール
小川 亜希 (おがわ あき)
【来歴】
1975年鴻巣市生まれ。北本市立宮内中学校で事務職員として勤務。2003年にスキー事故により脊髄を損傷し、車いす生活となる。リハビリ中に事故前から続けていたカーリングに本格的に取り組み始める。
ポジション：サード(4人制)・1・5投目(2人制)
【主な成績】
2010年バンクーバーパラリンピック 出場 / 2024年世界車いすミックスダブルスカーリング選手権 4位 / 2025年世界車いすミックスダブルスカーリング選手権 1位



ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会
車いすカーリング混合ダブルス日本代表・日本代表選手団 旗手

小川 亜希

3月7日(土)の開会が迫るミラノ・コルティナ2026パラリンピック。16年ぶりに日本が出場権を獲得した車いすカーリングに、宮内中学校の事務職員・小川亜希選手が日本代表として出場し、更に旗手として日本代表選手団を先導します。小川選手に競技の魅力や市内での活動、そして大会への思いを訊きました。



共にパラリンピックの舞台に挑む「チーム中島」のメンバー
左から飯野明子コーチ、小川亜希選手、中島洋治選手、荻原詠理コーチ

——**小川選手が車いすカーリングを始めたきっかけはなんですか。**

長野オリンピックのカーリングをテレビで見たのをきっかけに、社会人になってから趣味として始めました。その後、怪我を負ってリハビリ生活をする中で、現在のチームメンバーでもある飯野さんが「車いすでもカーリングができますよ」と教えてくれたんです。続けるうちに大会に出るようになって、今に至ります。

——**車いすカーリングの魅力はどんなところですか。**

車いすに限らず、子どもから高齢者まで、誰でも一緒にできる場所です。たとえ自分が下手でも、今に至ります。

——**試合の見どころ・注目してほしいところはどこでしょうか。**

ぜひ最後の一投に注目してほしいです。最初の一投も重要なのですが、勝負の決まる最後の一投は、特に動揺を手に乗せない心の強さが必要になる、緊張の一投です。

——**大会の意気込みと市民の皆さんへのメッセージをお願いします。**

決勝戦に勝って、メダルを持ち帰るのが目標です。自分が納得できる良いショットを出せれば、結果に結びつくと思っています。

皆さんに掛けていただいた声がとても力になっているので、応援のほど、よろしく願います。